

英 語（リスニング）

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

「英語（リスニング）」が導入され3年目を迎える。平成20年度における英語リスニングテスト受験者は490,853人で、昨年度の497,530人より微減しているが、依然として、大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）受験者の約97%が本テストを受験している。このことは、本テストの実施そのものや、使用される言語材料、難易等がセンター試験受験者や高等学校関係者及び各方面に与える影響は大きいことを意味している。本テストが、高等学校学習指導要領に掲げる「実践的コミュニケーション能力の育成」という観点を着実に定着させ、日本の英語教育の一層の充実に向け、大きな推進力になってきていることは極めて好ましい状況である。

平成20年度センター試験「英語（リスニング）」を検討・評価するに当たっては、以下の三つの事項をよりどころとした。

- (1) 現行の高等学校学習指導要領
- (2) 平成20年度大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等

「英語（リスニング）」は、「オーラルコミュニケーションⅠ」及び「英語Ⅰ」に加えて、「オーラルコミュニケーションⅡ」と「英語Ⅱ」に共通する事項を出題範囲とする。

- (3) 問題作成部会の問題作成方針

センター試験の「英語（リスニング）」は、「指導要領」の中の「言語の使用場面」と「言語の働き」に特に配慮して出題する。自然なコミュニケーションの特徴である「やりとり」を重視し、単に聞いて理解するにとどまらず、それにどう反応するかについて問うことにも留意する。

主に検討・評価した項目は、内容・範囲、分量・程度、表現・形式等についてである。本テストの平均点は29.45点であり、平成19年度の32.47点より約3点難化した。これは、センター試験が目標とする6割の平均点により近づいたとも言える。

2 試験問題の内容・範囲

第1問 短い対話の中で話題を瞬時に把握できるかどうかが重要となる。今年度は、締め切り日や形状などを問うものが出題されたが、昨年度と大幅な変更はなかった。問5のアイスクリームのイラスト選択問題も違和感のないものであると言える。また、解答についても、計算を伴うものや位置関係を示す語句を伴うものは昨年度と同様であった。

第2問 様々な場面設定のもとに、相手の予定を尋ねたり、感謝したり、依頼や質問に答えたりといった対話がなされており、単純に最後の応答が正答を導き出さないように工夫がなされている。そのため、全体のやりとりを正確に把握した上で、選択肢の表現をも正確に解釈しないと正答を選び出すことができないので、受験者には比較的高度な英語力が要求される。

第3問A 買い物や携帯電話の利用に関する話題は身近であったが、観光バスの乗車場所に関する話題は、聞き慣れない固有名詞が複数登場し、受験者にはややなじみのないものであった。

少し長めの対話を聞き、対話の流れが変化する中で登場人物それぞれの意見をとらえることが重要となる。読まれる英文の内容と選択肢の言い換えにも注意する必要がある。

第3問B 昨年度の室内の家具の位置関係を尋ねる内容から、今年度は同窓会の集合写真の人物を特定する内容に変更されたが、人物の身につけているものや位置関係から容易に人物を特定できる問題であった。

第4問A 音楽番組でのゲスト紹介や美術館の開館日時などの話題は身近だが、宣伝の文章を聞き、何の宣伝かを答えさせる出題は、受験者にとってなじみの薄いものであったと思われる。

第4問B 友人からもらったハワイみやげのエビの話を読み、それに関する質問に答える問題である。この第4問Bは、1問1答形式ではなく、まとまった英文を読み三つの質問に関する情報を聞き取りながら、最適な選択肢を選ぶことが必要だが、昨年同様、選択肢の中に長い英文のものがあり、受験者にはリスニング力に加えて速読力が必要とされた。

3 試験問題の分量・程度

(1) 分量

同一大問内において読まれた英語の語数のばらつきが昨年度より少なくなっていることは、読まれるスピードの安定にもつながり、高く評価したい点である。しかし、第4問になると語数が大幅に増加し、受験者にとってはスピードが速くなったと感じられたであろう。

また、選択肢の語数は、第4問Bで昨年度大幅に増加したが、今年度もほぼ同じであった。第4問Bの出題意図は、まとまった量の英文を読み、重要な情報・必要とする情報を聞き取れるかを見ることであり、速読力を要する長い選択肢は最適とは言い難い。次年度以降、選択肢の語数削減をぜひお願いしたい。

(2) 難易度

昨年度までとは異なり、各大問において難易度の高い問題が必ず入ったことに加えて、読まれるスピードが若干速くなったこと、話題の流れが途中で変わってしまう対話が多かったことなどにより、難易度は上がった。結果として、平均点は6割により近づいたことになるが、次年度以降、平均点がこれ以上は下がらないように難易度の調整を図った出題をお願いしたい。

4 試験問題の表現・形式

(1) 設問形式と配点

	出題形式		設問数		1問の配点	配点		難易度
第1問	ダイアログ：数値・イラスト選択		6	6	2	12	12	☆
第2問	ダイアログ：応答選択		7	7	2	14	14	☆☆
第3問	A	ダイアログ：文選択	6	3	2	12	6	☆☆☆
	B	ダイアログ：図表完成		3	2		6	☆
第4問	A	モノログ（短）：内容把握	6	3	2	12	6	☆☆
	B	モノログ（長）：内容把握		3	2		6	☆☆☆
平均点	29.45（昨年度 32.47）		25問		2	50		

(注) 難易度については、おおよその正答率に基づき、次のように表記する。

☆☆☆：難 ☆☆☆：標準 ☆：易

(2) 問題の構成

第1問

- 問1 レポートの締め切り日を答える問題である。締め切りを表す **due** がやや難しいが、音声・問題文の両方にあるので、会話の行われている日・「まだ3日ある」から「明後日」への基本的な転換を押さえれば、解答は難しくなかったと思われる。(☆☆)
- 問2 無くした眼鏡の説明からその形状をイラストで選ぶ問題である。ポイントとなる **square** と **rounded** のいずれも教科書で押さえられている程度なので、容易に解答できる問題である。(☆)
- 問3 地図上の位置関係を問う問題である。紛らわしい **the northeast** という情報もあったが、最後の **south of New York City** だけで正解の選択肢は容易に推測できたと思われる。(☆)
- 問4 切手の購入に関する問題である。今回唯一、数値を聞き取り、計算するものであった。切手の額面を表す数字の前に枚数を表す数字が付く表現は実生活でも紛らわしい場面であるが、さらに2種類の合計金額を計算する過程があることや、最後に **twenty-dollar bill** という紛らわしい情報が入ったことで、受験者にとっては難解であったと思われる。(☆☆☆)
- 問5 アイスクリームの種類をイラストから選ぶ問題である。使用されたイラストが分かりやすかったことと **cup** や **cone** といった語が受験者にとって平易であったため、解答は容易であったと思われる。(☆)
- 問6 パスワードの文字列を選択する問題である。ヒントとなるのが **two letters and three numbers** と **both letters are capitals.** である。前半の **three numbers** は大変容易であり、選択肢は二つに絞れるが、後半の **capital** が「大文字」の意味として多くの受験者にとって馴染みのある語かどうか疑問である。正解者は、その前半の **both letters are**…より同種類の文字だと推測したのではないかと思われる。(☆)

第2問

- 問7 相手と一緒にいけないという断りを入れる場面の問題である。**I wish** を使った構文と **something came up** という表現の両方の理解が求められるが、選択肢の中に、口語表現でよく目にする、いろいろな意味で使われる **make it** や、「急な予定が入った (**something came up**)」のであれば「待っていてあげるよ (**we'll wait for you**)」と結び付けることができそうな表現などが含まれており、受験者にとって正答を選ぶのは容易ではないと思われる。(☆☆)
- 問8 荷物の見張り番に関する応答についての問題である。音声は非常に短いやり取りであり、**keep an eye on my bag** という表現が分からないと、状況を把握できないままに対話が終わってしまう可能性がある。また、「結構時間がかかるの？」ということ英語で表すのに **Will it take (you) long?** という表現の方に慣れ親しんでいる受験者にとっては **Will you be long?** という表現はあまり耳慣れていないため、**be long** が **belong** に聞こえたことも考えられ、解答時にかなりとまどう問題であったと思われる。(☆☆☆)
- 問9 海外旅行によく出かける人との対話を扱った問題である。**manage** に「～を経営する」という意味があることを知っているとう理解しやすくなるが、対話では最初、旅行代理店を経営する息子のことが話題になりながらも、最終的には相手の旅行経験を尋ねている表現を正答として選ばなければならない。これには対話の流れの変化を瞬時に把握する力を必要とする

ので、比較的難易度の高い問題であったと思われる。(☆☆☆)

問 10 買い物に来た客と店員との会話を扱った問題である。妻への贈り物を探しているという点が聞き取りやすいので解答は容易であったように思われる。(☆)

問 11 通っている料理教室を話題にした問題である。最初は今夜の料理教室のことを話しながら、最終的には料理教室全般の内容に関して話していることを理解できているかがポイントになる。今夜のことを話し続けていると思ってしまう、混乱した受験者も多かったのではないだろうか。問 9 同様、話題の変化に素早く対応できることを要求される、比較的難問である。(☆☆☆)

問 12 プロジェクトの成功に対して助けてくれた相手にお礼を述べている場面の問題である。仮定法の表現 *I couldn't have done it without your help.* に慣れていたり、*you're just being modest.* のような、会話を円滑に進める常套句に精通していたりしなければ、簡単には正答を見つけれないと思われる。(☆☆)

問 13 数学の問題を解くのを手伝ってほしいとの依頼に対する返事を選ぶ問題である。手伝えるとも手伝えないとも答えられる状況なので、選択肢をすばやく読み取る力も試される、平易ではない問題であると思われる。(☆☆)

第 3 問 A

問 14 買い物で何を優先的に購入するかを問う問題である。最後の *clean clothes are the most important thing.* から、前半に出てくる *washing machine* を購入する必要があることを連想できれば、容易に解答できる問題である。(☆)

問 15 前半を聞いて時計の電池交換が必要であることが分かるが、後半で話題が転換し、母親がやっているように息子本人も携帯電話を使って時間を確認できることが分かる、という状況に変化する。後半の *Why didn't I think of that?* が、音が連結して聞き取りにくかったことや、ポイントとなる *I've got a cellphone, too.* の *have got* が口語表現であったため、とまどった受験者がいたのではないかと推測される。やや難しい問題であったと思われる。(☆☆☆)

問 16 市内観光バスの乗車場所を問う問題である。女性客が乗ることにした場所が、最後の *it's easier to start from the beginning.* を聞いて初めて分かるため、2 度目の聞き取りで確認することになるが、乗車場所の固有名詞が複数あったことと、*from the beginning* と *Central Bus Station* が結び付いたかどうかという点で、やや分かりにくい問題であったと思われる。(☆☆☆)

第 3 問 B

問 17 *in the striped dress* から縞模様の洋服を着ているのが Sue であると容易に解答できる問題である。また、胸に花をつけた女性が Kathy であると聞き取れれば、残りの選択肢から女性は一人しかいないので Sue を特定することは容易であったと思われる。(☆)

問 18 Kathy を中心にして、まず *next to you* から Tommy が Kathy の両側の男性のどちらかであると分かり、*the one with the cap* と *the other one* の対比により Tommy の位置を特定するのは容易であったと思われる。事前に与えられた日本語の「対話の場面」をよく読んだ上で、聞き取る際に、父親の言う *next to you* の *you* が Kathy であることを理解しなければならない。受験者の中には読まれる英文や選択肢に気をとられ、書かれた日本文によく目を通していな

い受験者がいたのではないかと思われる。（☆）

問 19 George had a camera. の部分が聞き取りやすく、唯一カメラを持っている男性を George と特定できる容易な問題であったと思われる。（☆）

第 4 問 A

問 20 ある音楽番組でのゲスト紹介の内容から言い換えられた特徴を選択する問題である。読まれた情報量が多いことや、in a row, Plus, all-time, the one and only といった英語圏でよく使用される表現が多用されたことで、多くの受験者はとまどったのではないかと思われる。

Maria M. が最後によりやく出てくるので、1 回目のリスニングが有効に利用できなかった可能性があり、結果的に難易度の高い問題となったと思われる。（☆☆☆）

問 21 ホテルの案内を聞き何の宣伝かを選ぶ問題である。すべてを満遍なく聞き、最後の We're often fully booked, so make your reservations early. から宿泊施設であることを特定することになるが、読まれる速度が速い割に、rooms や swimming, skiing, meals 等が聞き取りやすく、受験者は容易に正解できたと思われる。（☆）

問 22 美術館の閉館アナウンスを聞き、訪問日時として適当なものを選ぶ問題である。読まれた内容を整理し、選択肢の日時が範囲内にあるかどうかを一つずつ判断しなければならないことや、10 a.m. や from noon といった箇所で音が連結し聞き取りにくいことで、受験者は戸惑ったと推測される。（☆☆☆）

第 4 問 B

問 23 エビが通常生息する場所を問う問題であるが、読まれた brackish water と①の black-colored water を混同し、また、その後続く which is 以下の言い換えに相当する③との間で迷った受験者が多かったのではないかと思われる。高等学校の授業でも l と r の音については指導するが、brackish はなじみの薄い語なので、難易度が高くなったと思われる。（☆☆☆）

問 24 もらったエビをどうしたかを問う問題であるが、選択肢の語数が多く、長い英文を聞きながら三つの問いに答えるという第 4 問 B の形式では、受験者にとっては選択肢を読んで理解するのに苦労し、正解にたどり着けない者が多かったと推測できる。これら 3 問の中では最も難易度の高い問題となったと思われる。（☆☆☆）

問 25 エビを置いておいた台所に翌朝、主人公が急いだ理由を問う問題である。選択肢では同じ語句が用いられておらず、話の流れをきちんと把握し、読まれた英文の a disaster と③の be in danger が何を意味しているかを理解しないと正答は見分けづらい。受験者にとっては容易な問題ではなかったと思われる。（☆☆）

5 要 約

(1) 要約

- ① 高等学校学習指導要領及び高等学校教科書等に基づいており、高等学校段階における基礎的な学習達成の程度を判断する問題として、ほぼ適切であった。
- ② 問題形式や難易度については、受験者にとって十分対応できる適切な問題であったが、個々の問題の中には、昨年度同様、極めて難易度の高い問題があった。

- ③ 「聞く」の領域における学習の成果を問う問題として適切であった。
 - ④ 読まれた英文については、速度・発音等の点において、極端な訛り等もなく、聞き取りやすいものであり、また、音質についても特に違和感がなく、昨年度のようなエコーがかかっているような録音ではなかった。
 - ⑤ 自然な口語表現を重視する姿勢を高く評価したい。
- (2) 意見・要望・提案等
- ① 出題形式・内容など、非常によく工夫されている。次年度に向け、更に良い試験問題となるよう検討・改善をお願いしたい。
 - ② 「英語（リスニング）」は、昨年度同様、試験日の最後に実施されたが、全科目受験者にとってはかなり疲労が重なった状態での受験であったと思われる。このため、受験者にとって過度の負担とならないよう、試験日程の工夫を重ねて要望したい。
 - ③ 機器の異常については、今年度も多くの事前交換・再開テスト・再試験が発生しており、次年度に向け、引き続きその原因の解明と適切な改善をお願いしたい。特に、リスニング実施上の不適切な対応等でも多くの再試験者が出ていることは大変残念である。さらに、イヤホンについては、耳から外れ易く、また、終了後には机の上に置く際に受験者に配慮を要求するなど、使いやすさとは言い難い。柔らかく耳から外れにくいものにするなどの改良も、重ねてお願いしたい。
 - ④ 読まれる英文については、受験者にとって十分に対応できる速度や発音等の明瞭さを維持していただきたい。また、選択肢の語数については、昨年度・今年度の第4問のように2行に渡るものが次年度以降はないよう要望したい。
 - ⑤ 次年度以降については、今年度と同様の理念及び方針等に基づき、学校現場等におけるリスニングの指導及び「英語（リスニング）」の問題形式・内容等が着実に定着しつつあるという観点から、一層難化することがないよう十分な配慮をお願いしたい。